NPO 法人
リタイアメント情報センター
Retirement & Information Center

Relive Journal

“りらいぶ” ジャーナル No.22

平成２８年　中秋号　（１０月１４日発行）

＜“りらいぶ”憲章＞

●組織、肩書き、経歴にとらわれない自由な生き方

●知識、経験、技術を生かして社会に貢献する生き方

●初心に帰って新しい自分を発見する生き方

私たちＮＰＯ法人リタイアメント情報センターはこのような生き方を“りらいぶ”と呼び、その生き方をサポートします

＜目次＞

1.　新年度（第１０期）のご挨拶　（理事長　竹川　忠徳）
（副理事長（関西支部長）　阿賀　敏雄）

2.　オーロラ鑑賞旅行
（カナダ・イエローナイフ）
（会員　渡嶋　八洲夫）

3.　カリブ海クルージング　旅行記（緑色の海を堪能するゆったりした旅）　（会員　山本　昌弘）
4.　「コンサート＆講演会」に参加して思った事　（西澤　信善）
5.　「チャーチル会京都」のこと　（チャーチル会京都　幹事長　木津谷　文吾）
6.　バリ島青年のその後、　出会いの不思議　（黒部　正也）
7.　エッセイ・自分たち探し「ほのぼのマイタウンより」　（フリージャーナリスト　國米　家巳三）
●
「弁証法的唯食論」というのをご存知でしょうか

8.“りらいぶ”サロンのご案内「日本語教師でトクする話」　（“りらいぶ”塾　塾長　鈴木　信之）
9.　関西支部行事のお知らせ　（関西支部長　阿賀　敏雄）
10.　東京地区から行事のお知らせ　（事務局）

１．新年度（第１０期）のご挨拶

● 理事長ご挨拶　（理事長　竹川　忠徳）

今期は私ども特定非営利活動法人(NPO)リタイアメント情報センターは、10 年の節目を迎えます。ここまで参ることができましたのも、皆様の日頃のお力添えの賜物と存じ、改めまして衷心よりお礼を申し上げます。

過日、某禅寺の雲水の托鉢に応じ、喜捨をされた方の話を伺いましたが、「その瞬間に”やれる喜び”を感じ人生がバラ色に変わった」とのことでした。当 NPO も、会員諸氏の思いを受け、５年前の東日本大震災に続き、前期の熊本地震の際にも貧者の一灯を献じました。共に”やれる喜び”を味わって頂ければ幸いです。

前期はグローカリゼーション（Think globally, act locally.）を掲げ活動してまいりましたが、桂三若師匠の落語会や関西在住の柏原幾松氏講演会を東京で催す程度の歩みであり、道半ばの感があります。今期も、副理事長の３氏を中心に関係各位のお力添えのもと着実に歩を進めて参りたく思います。

新組織体制に関しましては、コミュニケーション手段の IT 化に備えて、今期を通じて若い方々にご協力をお願いしていく所存です。また、発足当初から副理事長の重責を担って頂いていた尾崎浩一氏が、ご本人の申し出により今期より退任され、今後は参与としてご協力いただくことになります。当 NPO 立ち上げからの氏のご尽力に関係者一同を代表して厚くお礼を申し上げます。

10 周年記念行事は？との声がちらほら聞かれる昨今ですが、今後も関係各位のお力添えを宜しくお願い申し上げる次第です。

● 関西支部長ご挨拶　（副理事長（関西支部長）　阿賀　敏雄）

出会いのご縁を大切にして、シニア仲間の楽しい輪を広げて参ります。
前年度は「講演会」「落語会」「歌声喫茶の会」「CD の会」「株式投資研究会」等々を通じて楽しいひと時を過ごさせて頂き、有り難うございました。

今年度は新規行事として「ゴルフ会」「笑いヨガ」「留学生交流」「人間愛について」「藤はじめコンサート」等々に果敢に取り組んでいく所存です。

また１月 26 日（木)には拓殖大学総長・元防衛大臣の森本 敏 様をホテル・アイボリーにお迎えし、新春特別講演会を開催致します。

皆々様の倍旧のご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

2. オーロラ鑑賞旅行（カナダ・イエローナイフ）　（会員　渡嶋　八洲夫）

2016 年９月５日～１３日「オーロラ鑑賞とカナディアンロッキー・ハイキング」を楽しんだ。参加人員は２３名（内男性６名、平均年齢７５歳、）、この数年スイスでハイキングをしてきたシニアグループである。本号ではオーロラ鑑賞に絞り、カナディアンロッキー・ハイキングについては後日取り上げる予定である。

（1）オーロラ鑑賞

オーロラの出現は太陽風と大気の酸素や窒素分子、晴れ具合等の自然条件に左右される。経験上オーロラ出現の確立は３０％程度と言われており、どこのツアーも３日間をオーロラ鑑賞に当てている。従って今回はイエローナイフに３日間滞在することにした。幸いオーロラ出現に恵まれ、初日は５段階評価で５点と満点、２日目は３点、３日は出現せずと予想以上でオーロラ鑑賞を堪能した。

市内のホテルをチャーター・バスで 21 時頃出発、１時間ほどで「オーロラ・ビレッジ」に着く。「オーロラ・ビレッジ」は広大な林の中に設定されている。鑑賞用の５ケ所の丘（ムースの丘、バッファローの丘等）がビレッジ内に点在。ティーピー（テント）と呼ばれるカナダ北部に住む先住民が住居として利用していたテント 11 棟がオーロラレイク湖畔に、林の中に１０棟が設置されている。その内１棟が我がグループに割り当てられた。テントの大きさは３０名を十分収容でき、天井も高く、外は寒いのでオーロラが現れるまでこの中で、コーヒー、紅茶、ココアの暖かい飲み物を飲みながら待機する。テントの暖房は大きな薪ストーブによっている。オーロラが良く見られるよう、ビレッジ全体は暗く外灯もない、懐中電灯で足元のみを照らしながら移動する。ギフトショップ、レストランもあり、１晩だけここのレストランで夕食をとった。メニューはローストバッファローかホワイトフィッシュ、サラダ（又はスープ）デザート、紅茶またはコーヒー。

上の写真は、ティーピー（テント）内風景、およびオーロラ鑑賞時のオーロラ風景
当紙面でのオーロラの色の確認は、目次のページにある写真でご確認ください。

（2）オーロラの不思議

① どこで見られるか

フィンランド、アラスカ、アイスランド、スエーデン、カナダ等北半球の北緯６０度付近での地域で鑑賞可能である。旅行社によるツアーがこれらの地域を対象に企画されている。　太陽の活動によって発生する「太陽風」の中にある電気を帯びた粒子が、地球の磁力に引き寄せられ、大気圏に突入する時に起こる衝突のエネルギーが光となる自然現象である。南半球でもオーロラは発生する。地球の上空 100ｋm～500ｋmの高さで発生するので曇った日には地上からは見えないが、飛行機は 10km の高さで飛行するので十分見られることが多い。
「オーロラは寒いからよく見える」のでなく「オーロラが見える場所は寒い」が正しい。

② どうして光る

太陽風の中の電気を帯びた粒子（プラズマ）が地球の大気圏に突入すると、大気中に含まれる様々な物質にエネルギーを与え不安定な状態になり、その状態を正常な状態に戻そうとして余分なエネルギーとして「光」を放出する。ネオンサインや蛍光灯と同じ現象である。

③ 色は虹のように７色ではない、肉眼では白が大部分

色は発生した高度によってことなる。200km～300ｋm上空発生したオーロラは赤、色になる、100km～200ｋmのものは緑、100ｋm程度だとピンク色に発光する。
肉眼では白っぽい色しか見えなかったが写真では綺麗な緑色であった。

④ オーロラの形

オーロラの形は鑑賞ポイントによって変わる。光が天空から注いでいるように見えるものが多かった。カーテンが揺れている様なもの、地平線から湧き出は様なものと様々であった。

⑤ オーロラの撮影

MF（マニアルフォーカス）にセットし、ピンとは無限大、搾りは一番明るい値、シャッタスピードと感度を設定する。オーロラの明るさと動きによって感度と露出時間も変える。機材の選定も大切である。ブレを防ぐため固定すると良い。現地で指導してくれるサービスもある。

（3）後記

緯度が高いので寒さを心配したが、この時期のイエローナイフは4℃～１０℃とさほど厳しい寒さではなかった。東京は９月初旬で未だ暑く、荷物が正しく着かない場合を考慮して耐寒用具を手荷物にした。鑑賞時間は 22 時～2 時になりホテルでの就寝時間は３時を過ぎになるが朝の起床が９時過ぎとして、さほどの寝不足は感じなかった。
神秘的なオーロラ鑑賞が堪能でき幸運に感謝した旅であった。

３．カリブ海クルージング　旅行記　　（緑色の海を堪能するゆったりした旅）

（会員　山本　昌弘）

今回は、地中海、エーゲ海・アドレア海、東アジアのクルージングに次いで、もっともポピュラーといわれるカリブ海クルージングにでかけた。日本からヒューストン経由でマイアミへとび、クルージング船に乗る前日と下船後の日は、乗船地でホテルに１泊する。クルージング旅行では、その方が、長距離飛行機をともなう場合は楽だし、無理なく行動できるのでお勧めである。クルージングはマイアミから出港する８泊９日の舟旅である。マイアミから、ジャマイカ、ケイマン諸島、メキシコ、バハマの４カ国に寄港するゆったりしたクルージングである。

クルーズの寄港先

MSC 社のディヴィーナ号

クルーズ船はイタリアのMSC 社のディヴィーナ号で、総トン数 139,072 トン、乗客定員 3,502 名、乗務員数 1,388 名、全長 333 mのＭＳＣ社でも最大級のクルーズ船である。毎晩行われる夜のショーでのキャプテンの挨拶によれば、乗船者は船がイタリア国籍であることから欧州系の人が多く、伊、スペイン、ドイツ、フランス、次いで、アメリカ、中南米から世界 44 カ国の人が乗船している。年々クルージングの利用者が増えており、ＭＳＣ社でも既に 11 隻建造が決まっており、今年中に２隻が竣工するとの話があり、ますますポピュラーになってきていることが感じられる。

ジャマイカの高台から見る海

最初にジャマイカのオチョオリスに寄港した。ジャマイカは丁度夏期オリンピックが終った後で、陸上短距離のポルトが 100m で４冠したことで、ポルトの例のポーズの掲示物があちこちで散見された。ここでは、ダンスリバー滝登りを経験した。滝からの水が流れる岩道を参加者が手をつないで、一列に並んで登ってゆく。途中に水が流れ落ちる場所では、滝に打たれるなど途中で水と戯れる。滝から流れてくる水はきれいで涼しく、快適である。少し若者向きのイベントかと思う。

これまで、鉄道とバスで移動する陸上の海外旅行を度々してきたが、クルージングの旅に出かけるようになって思う。船は、観光地のある港に朝寄港する。当日分の荷物をナップザックに入れて軽装で観光に出かける。夕方までに船にもどれば、船は夕刻出港する。クルージングはホテルがついており、荷物を運んでくれ、重い荷物をもっての移動がなくなる。ある意味、年配者には持って来いの旅である。老齢化が進む中で、益々増加するかと想像する。

次に、ケイマン諸島に寄港した。ケイマン諸島は西インド諸島を構成する島の１つで、イギリスの海外領土である。その首都ジョージタウンに寄り、小舟に乗って 20 分ぐらい沖に出ると遠浅になっている場所があり、アカエイを餌付けして育てている。アカエイと戯れたり、シュノーケリングが最高の場所である。美しい小魚から少し大きい魚が沢山見られる。海は緑色で完全透明ですばらしい。

ケイマン諸島でアカエイと戯れる

マヤ遺跡

メキシコは、ユカタン半島近くのコズメル島に寄港した。そこから、高速船で本島のプラヤデルカルメンに上陸して、「ナゾの古代文明」と呼ばれる、トウルムのマヤ遺跡を訪問した。紀元前 2500 年頃、中央アメリカに誕生してから、数千年にわたってメキシコ南部から中米南部までの広い範囲で栄えて、ヨーロッパ人がアメリカ大陸に到達する前に突然姿を消してしまった謎の古代文明といわれる。海岸沿いに作られた城あとが残っており、風光明媚で、緑色したカリブ海をバックにそそりたっておりすばらしい。岸壁にそそり立つ名城だったのがうかがえる。マヤ遺跡は、この地域に４か所ある。世界遺産に指定されたものは、訪問した場所から数百Km離れたところにあるが、今回訪問したマヤ遺跡は、海べりに建つ名城として、多くの観光客が訪れるところである。

次にバハマに寄港した。バハマは 700 個以上の島々からなる国で、アメリカフロリダ半島から 100Km と近くに位置する。バハマ諸島の 95%以上が無人島で、カリブ海に浮かぶ無数のきれいな島々が見られる光景である。1492 年にイタリア生まれのスペイン人であるコロンブスが上陸しサンサルバドル島と名づけられる。これがコロンブスによる新大陸の発見となっている。その後、スペイン領となり、1647 年からイギリスの植民地となり、1973 年にイギリスから独立したが、現在もイギリスのエリザベス女王を国家元首とする君主国である。今回は、ニュープロビンス島にある首都であるナッソーに到着した。ナッソーは完全なリゾート地で素晴らしいカリブ海に囲まれて最高の海辺をエンジョイできる。

バハマの海辺

カリブ海クルージングの発着はフロリダ半島のマイアミかフォートロードレールのいずれかであるが、今回はマイアミからのクルージングだった。マイアミは、マイアミ市とその横の島であるマイアミビーチ市があり、商業地と観光地で大きく異なった町である。いずれも、マイアミ国際空港から近いので便利である。時間を見つけて、マイアミビーチとマイアミ市を見物した。マイマイビーチは昔ながらのビーチ観光地・保養地で、観光客で一杯である。特にビーチ沿いは開発され、高層のホテルが林立している。リタイア後の多くの富裕層、有名人が移り住んでいるようである。一方、マイアミ市は大きなダウンタウンが展開する商工業都市として発展している。一般都市交通も開発され、飛行場から飛行場中央駅までは無料のモノレール、飛行場中央駅から都心へは３ドル程度で行けるメトロレール（Metororail)、都心から海べりのベイアリアへはこれも無料のメトロムーバー（Metoromover）が走っており大変便利である。この一般都市交通を使って、マイアミのベイエリアへ行ってみたが、観光客で一杯である。25 年ぐらい前に訪問したことがあるが、その時と大きく変わっている。

マイアミ　ベイエリア

今回のカリブ海クルージングは若向きのクルージングかと思う。

（記　2016. 9. 28）

4.「コンサート＆講演会」に参加して思った事　（西澤　信善）

かしわもちさんのコンサート

かしわもちさんの歌とギター演奏を聞いた。正直言って、楽しませてもらった。ほんとうに久しぶりに聞いた曲があった。♪別れた人と神戸で会った。見つめ合って、見つめ合って、港まで黙って歩いた♪　名曲であるのに、この何十年カラオケでも聞いたことがない。ベルウッドでもこの歌を持ち歌にしている人を知らない。この歌に私自身、何の思い出もない。「見つめ合った人」もいない。が、かしわもちさんが奏でる哀愁のメロディーにいつしかロマンティックな世界に浸りこんだ。漱石は、「芸術家はこの世の憂さを一瞬でも忘れさせてくれるがゆえに尊い」と喝破した。確かにかしわもちさんのなせるわざでこの世の憂さを忘れたのであるが、それは一瞬であった。たちまち、「お前はアホか」とこてこての大阪の空間に引きずり込まれた。ご存知、これは一世風靡した横山ホットブラザーズのギャグ。かしわもちさんの求めに応じて唱和した、「お前はアホか」と。当方、生まれも育ちも大阪は豊中、こちらも何の抵抗もない。語りもユーモアがあって良かった。かしわもちの名前の由来はと自問し、「かしわもちに似ているからでしょうか、いや、そうではありません」という件（くだり）は笑わされた。「いや、ちょっと似ておられるのでは」というのが私の印象。色は白く、お肌はつるつる。そして、帽子が葉っぱみたいなら完璧だったのに。中野先生が最初の挨拶で言われた、「特別な人の演奏と聞かないでください」と。もしかしたら私は期せずして、それを忠実に実行したかもしれない。

譚晧先生のご講演

譚先生と知りあったのはそう古い事ではない。せいぜい 1 年強前のことに過ぎない。大連在住の日本人の方から紹介していただいた。交遊が深まるきっかけは二つある。一つは、丁度一年前のことになるが小生が大連を訪れた際、遼寧師範大学で講演する機会を作って頂いたこと、もう一つは、昨年 11 月豊中在住の旧満州生き残りの方の講演会を大連で開催した際、大変お世話になったこと、の二つがそれである。交流は双方向でなくてはならないというのが先生の持論である。同感である。今回、日本にお呼びしたのもその流れである。先生の専門は中国近代史、日中関係史。日本史にも造詣が深く、倉石武四郎を中心に戦前、日本から中国に出かけた留学生に焦点をあて研究されている。先生が言及された阿倍仲麻呂も吉備真備も留学生であった。考えてみれば、彼ら留学生を通じて中国の高い文化が日本に伝えられたのであった。中国語に接した時、日本人はその難解さに閉口したに相違ない。おそらく長い時間をかけて、その難渋な中国語文を日本語風に順序を変えて読む方法を考案した。中学や高校の時には日本語風に読みくだした漢詩を習った。孟浩然の「春暁」なら誰でも知っている。「春眠暁を覚えず　処々啼鳥を聞く　夜来風雨の声　花落ちること知る多少」　日本語風に読み下しても素晴らしいものである。ある意味では日本人の偉大なところである。

倉石は中国語を外国語としてまず発音から学んだ。そして、読む、書く、聞くそして喋る、の能力をマスターした。彼は辞書を編纂したほか、おびただしい中国語文献を集め、そして中国の知識人と交わった。倉石の編纂した辞書によって中国語学習は飛躍的な進歩を遂げたであろう。彼には潤沢な奨学資金が与えられ、経済的には恵まれた留学生生活を送った。倉石はそれに応えるだけの十分な業績を残したと思われる。譚先生の仕事は、倉石の足跡を丹念に辿ることによって彼の業績をこつこつと発掘することである。今回の講演ではその倉石を取り上げられたのであるが、少し専門的になりすぎるのではないかと危惧をした。しかし、それは杞憂であった。平易な語り口と巧みな論理構成で聴衆を飽かすことなく、戦前の先駆的留学生の世界に誘った。

司馬遼太郎によれば、明治期だけでも 1 万人くらいの中国人留学生が日本にいたという。しかし、日本から中国に出かけた留学生は、人口比を考慮してもそれに比べたら圧倒的に少なかったのではない

か。保阪正康は戦前の日本の中国の認識はきわめてお粗末であったと言っている。なぜか。日清戦争で勝利して以降、日本人は中国人を蔑視するようになったといわれているが、その蔑視が中国研究の意欲を低下させ中国の正しい理解を妨げたのではないか。戦前、もっと大量の留学生を送り込み中国理解が深まっていたら、バカな戦争をせずに済んだと思えてならない。譚先生の話を聞いて留学生の果たす役割の大きさを知った。譚先生は若いながらも道義をわきまえ、高い見識の持ち主である。国際交流の基礎は言葉である。堪能な日本語を生かし、今後とも長く日中友好に力を貸してもらいたいものである。

コンサート＆講演会

日時　２０１６年8月２６日(金)
会場 :エ トレ豊中ステップホール
前売り券 1,000円

第一部14:00～14:45
「 かしわもちかずとコンサート」

2001年生　明石市在住
視聴特別支援養護学校に通う中学３年生(14歳)。先天性の網膜の疾病で生まれつき目が見えません。両目とも視力(光覚)のなしの全盲です。
小学３年生の時に独学でギターをはじめました。学校が休みの日はいろんなイベントに出演しています。その様子がNHK総合テレビでも紹介され一躍有名になりました。最後の曲は「上を向いて歩こう」を皆様と一緒に合唱したく楽しみにしております。

第二部15:00～16:30
講演　「近代日本人の中国留学史・・。倉石武四郎を中心に」
講師　遼寧師範大学教育学部講師　譚皓(たん こう) 講演は日本語です。

1983年遼寧省撫順生まれ。
2006年遼寧師範大学教育学院卒。
北京大学優秀卒業生賞、北京市優秀卒業生賞
2009年同大学院教育学修士号（教育史専攻）、
2014年北京大学歴史学文学博士号（近現代中外関係史専攻）をそれぞれ取得。
大学および大学院に在学中に交換留学生として
2004～2005　　大分大学
2011～2012　　東京大学
2014～15.3　　神奈川大学人文学研究所客員
大連民俗大学講師　遼寧師範大学教育学院講師
<研究領域>
中日近現代史、近現代中日関係史、教育交流史、近代日本人の中国留学史

NPO法人リタイアメント情報センターはかねてより遼寧省大連市にあります東北財経大学の張抗私先生、方愛郷先生と親交を深めてまいりました。今回そのご縁で譚皓先生の講演を企画させていただくこととなりました。ささやかですがおだやかな民間外交にご支援を宜しくお願いいたします。

主催
NPO法人関西リタイアメント情報センター
顧問(中野寛成)　理事長(竹川忠徳)　関西支部長(阿賀敏雄　090-1896-4575)

5.「チャーチル会京都」のこと　　（チャーチル会京都　幹事長　木津谷　文吾）

チャーチル会京都は、素人の絵の会です。　本年、創立６５周年を迎え、７月２７日から８月１日まで大丸京都店のイベントホールで、「創立６５周年記念チャーチル会京都展」を開催いたしました。結果、入場者は４０００人近く、素人の絵画展としては類を見ない盛況裡に終始しました。

リタイアメント情報センター関西支部長の阿賀敏雄さんは、毎年、チャーチル会京都展をご覧くださっているお一人です。その阿賀さんから、このたび、チャーチル会についての寄稿を要請されました。私としては、リタイアメント情報センターの会員の皆様に興味ある内容ではないと固辞したのですが、強く押し切られて、止無く駄文執筆した次第です。

チャーチル会京都展での筆者

チャーチル会は、戦後の索漠たる昭和２４年（１９４９年）、東京の銀座の蟻屋という和風喫茶に集まっていた文化人の中から、宇野重吉、森雅之、高峰秀子、藤浦洸ら８人が「油絵でも描いてみるか！」と、絵を描く基礎が全くないままに油絵を始めたのが端緒です。

英国の首相だったW・チャーチルは、「絵ほど気晴らしによいものはない　描きだせば頭の中に何もなくなる　上手も下手もない」と、政務の疲れを癒すために絵を描くことを趣味としていました。それに因んで、この会は、チャーチル会と名付けられました。　その後、「面白そうだ」と、社会の第一線で活躍する方々が次々に入会され、忙中有閑に絵を楽しみながら親睦をはかる会として発展しました。

チャーチル会は、カルチャー教室のように絵を習うのではなく、各自が思い思いに、基礎の有無や上手下手などに関係なく、型にはまらない自己流の絵を描くことを楽しむことを旨としているため、画風も画材も各人各様、個性的でバラエティーに富んでいます。

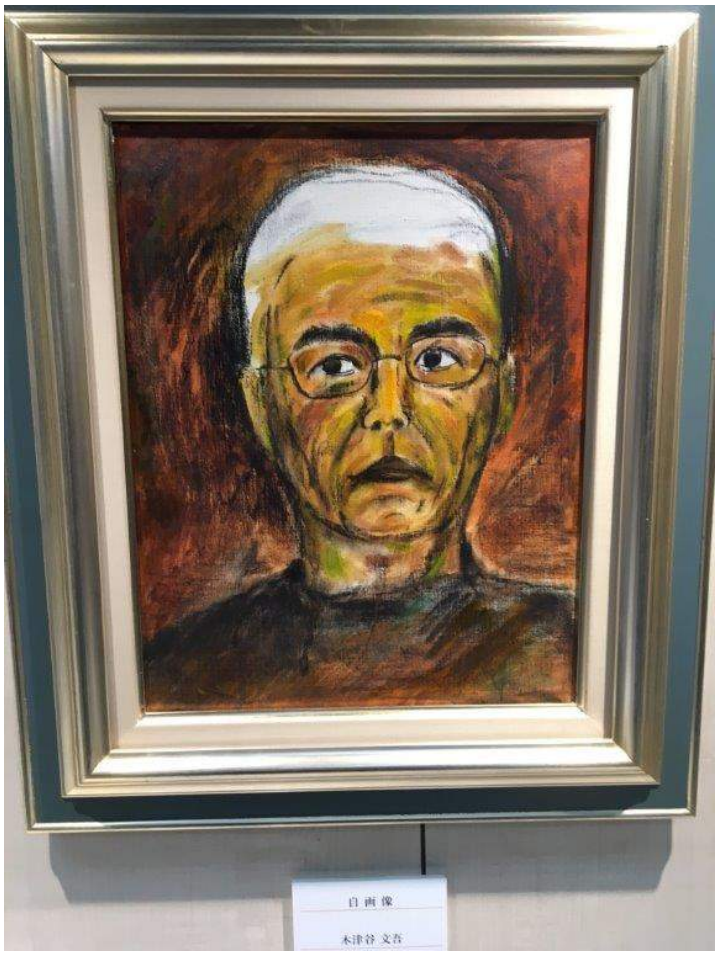
東京で始まったチャーチル会は、全国に波及し、姉妹会が各地に誕生しました。チャーチル会京都は昭和２６年（１９５１年）に設立され、初代幹事長に林正治（水彩画）、初代客員に池田遥邨（日本画）の体制でスタートし、京都の各界の多士済々の方々が入会されました。因みに、長谷川一夫（俳優）、山本富士子（女優）、水戸光子（女優）、高山義三（京都市長）、千宗室（茶道裏千家第１４代家元）、林田悠紀夫（京都府知事）ら著名人も会員として名を連ねました。現在会員は５３名。加えて特別会員に、九條道弘（平安神宮宮司）、冷泉為人（冷泉家当主）、池坊専好（華道家元池坊次期家元）、そして、客員として、池田良則（日展会員、白日会常任委員）、芝田友司（独立美術協会会員）、堀井聰（白日会関西支部長）という重厚な体制です。

チャーチル会京都は、立場、年齢、性別、などに関係なく、絵を描くことが好きで親睦をはかれる人が会員になっており、京都以外に住む会員も少なくありません。不肖私もその一人です。

創立以来、毎年、大丸京都店で展覧会を開催しています。会場では会員が希望者の似顔絵を描いたり、絵手紙作りが体験できる催しもあり、また、「こんな絵なら私も描けるわ」、「絵を描くのは楽しそう」など、作画者と鑑賞者のコミュニケーションがあります。これらを通じて文化芸術を身近なものとし、関心を深めていただくことに少しでも貢献できればと思っております。また、展覧会では、チャリティーコーナーを設けて、会員が心をこめて描いた小作品を販売し、その収益金を社会福祉に役立てるべくチャリティー活動もいたしております。　このような所以により、チャーチル会京都は、”文化芸術と社会福祉に貢献する絵画の会”として認知され、展覧会には、在京企業や画材各社の協賛をうけ、京都府、京都市、報道機関から後援をいただいております。

現在、チャーチル会の姉妹会は全国に４３あり、毎年一度、主催姉妹会を決めて全国大会を開催し、全国各地の姉妹会が一堂に集合します。　各地のチャーチル会姉妹会は、絵を描く仲間ですが、それぞれ独立して運営されていて会員数も会費も活動内容も異なります。したがって、上記の縷々の記述は、チャーチル会京都の事例であることを、念のため申し添えます。なお、もし、絵に関心がありチャーチル会への入会を希望する方があればお申しください。歓迎いたします。

以上



筆者の自画像

６．バリ島青年のその後、　出会いの不思議　　（黒部　正也）

人との出会いは実に不思議である。２０１４年９月、私は阪急電車の宝塚線、川西能勢口駅の構内下にある市営のギャラリーで「バリ島に魅せられて」と題して油絵の個展を開いていた。

３日目、突然黒いソフトを被った物腰の優しい紳士が現れ、バリ島について話をするよう依頼された。これが関西支部長の阿賀さんとの出会いである。１０月、豊中の喫茶店でバリ島の芸術村ウブドの民宿暮らしについて、自作のピクトストーリーと油絵を持参してお話をした。

会場では、思い掛けず中野寛成先生と出会い、久しぶりに議員時代の〝秘話〟をお聞きすることが出来た。席上阿賀さんから機関誌ニュースレターにバリ島話を書くようにと依頼された。あれこれ考えた末、ロンボク島への旅行記に決めた。私のつたない作文が「バリ島青年とジイジの旅」と題して　りらいぶジャーナル平成２７年新春号から３回掲載された。

「デワくん、その後どうなりましの？」　旅行記の中で一緒に旅行した、デワ青年についての質問が数人の女性からあった。老人の私より、バリ島のハイカーストに属する、デワ青年に魅力があるらしい。

その質問が私を後押しした。デワくんは感受性の鋭い青年で、恋に喜び、恋に悩んだ。そして逞しく生きている。掲載され旅行記の続きを書いて、「バリ島青年との旅・デワくんの青春」を出版するプランをたてた。デワくんは都合で名前をグデくんに変えた。

ところが妻と娘から「作家気取りは止めて頂戴！」と出版を猛烈に反対された。しかし、私は間もなく８１歳。元気なうちに、お世話になったバリ島の皆さんへお礼の言葉を書きたかった。定年後、ともするとマイナス思考に陥りがちの私に、毎年１ヵ月のバリ島民宿暮らしは、活を入れ、前向きに生きる勇気を与えてくれた。

今年の夏は暑かった。滞在中書き溜めた日記帳から、デワくんのその後を、黙々と編み出し綴った。そして「バリ島の忘れ得ぬ人々」と題する７つのエッセイを付け加えた。出版準備に拍車がかかった。

妻は、今は諦めて、しぶしぶ私の自費出版の賛成側に廻ってくれている。
来年１月、「バリ島青年との旅・グデくんの青春」（仮題）と題して、私のささやかな文庫本が文芸社から出版される予定である。

（2016年8月7日記）

2014年10月 ベルウッドにて
バリ島のご紹介をされる黒部様

7．エッセイ・自分たち探し　　「ほのぼのマイタウンより」

「弁証法的唯食論」というのをご存知でしょうか

（フリージャーナリスト　國米　家巳三）

フランス革命前夜の 18 世紀半ばは、ルソーが「民約論」を発表したり、マルクスが「資本論・第1巻」を刊行したり、いってみれば“哲学の季節”でした。

そのマルクスの兄貴分に当たるフォイエルバッハも実存主義哲学の唯物論者ですが、次のような発言を残しています。

「人は、その食べるところのものである」

これ、唯物論というより、むしろ「唯食論」ではないか。もっとも「唯食論」は筆者の造語ですが・・。考えれば個人が「食べるところのもの」であるなら、民族はもっと「食べるところのもの、そのもの」でしょう。

分かりやすいので韓国を例にあげます。彼らの国民食はキムチ。野菜をトウガラシとニンニクで漬けて朝鮮半島では千年来、親しんできました。韓国人は日頃からいいます。「キムチがなければ生きられない」。事実、ベトナム戦争に参戦した韓国軍の士気がいまひとつ盛り上がりを欠いていると伝えられると、当時の朴正熙大統領は大統領命令を発して大量のキムチ缶詰を補給した話は有名。世界文化遺産にも「キムジャムーキムチ作りの文化」が登録されました。

キムチが韓国の国民性に影響を与えていることは否定できません。すぐ感情を爆発させるのは刺激性のつよいトウガラシから。粗いけど短期間に大規模プロジェクトを仕上げたり港湾など 24 時間休みなく稼働したり、実に精力的に働く民族性はニンニクから。唯食論では、そうみることができます。

隣の中国。以前から“悪食（あくじき）天国”の異名をもつ国で、まさにアナーキーな食文化が特徴。「空では飛行機、海中では潜水艦。これ以外はみな食べられる」と中国人自身が自嘲気味に話します。中国からの訪日客の、いわゆる“爆買い”やホテルでの大騒ぎなどは、彼らの特異な食文化の延長線上のものといっていいでしょう。

振り返って私たち日本人はどうか。この欄でもこれまでもしばしば唯食論の視座からユニークな「草食文化」に言及しました。縄文以来、日本列島では植物系の食材に軸足を置いた食性が貫かれました。肉食が広がったのは１万数千年の日本史のなかで、ごく最近の半世紀ばかり。それも海外諸国と比較すると、いまでも肉類の消費量は圧倒的に少ない。したがって民族性は植物的。物静かで周囲への細かい配慮を怠らず、一見、横並びを大事にするようで、実質は多種多様な世界です。きわめて多彩な中小企業の展開がその証し。スポーツでもあらゆる種目に日本人がいます。そのうえ鮮度志向や緻密性が濃いのも草食文化がもたらすものです。

反面、欠点も多い。なにより植物同様、受動的な性向が目立ちます。そのため決断に時間がかかるし、危機意識も薄い。また積極果敢な発信力がない。こうした欠陥は、この国の外交に露呈します。先進国で日本外交ほど拙劣な国はありません。また草食・日本人の宿痾ともいえるのが視野の狭さ。前々からマスコミがなんども「この国には国家ビジョンがない」と政府を批判しますが、いまだこれという国民の琴線に触れるビジョン提示はありません。４年後の東京五輪の旗になるビジョンづくりも完全に失敗しました。

食から民族性をみる「唯食論」。この視座はあらゆる国に共通して使えます。その意味で、あえて「弁証法的」をかぶせました。

こくまい・かきぞう
元産經新聞記者・東久留米市在住

ほのぼの情報ネット様の情報誌「ほのぼのマイタウン」が今年７月で休刊となり、今回のエッセイ・自分たち探しの転載も最終回となりました。ほのぼの情報ネット様には大変お世話になり、本当にありがとうございました。

NPO 法人
リタイアメント情報センター
Retirement & Information Center

8. “りらいぶ”サロンのご案内　　（“りらいぶ”塾 塾長 鈴木 信之）

現役教師の方、これから教師を目指す方へ…

日本語教師でトクする話

目からウロコの日本語教師活用術

――プレゼンター／ファシリテーター　にほんご教育コンサルタント・鈴木信之

年齢、性別、出身校、経歴などを超えて、「日本語教師」という共通テーマのもとに情報交流できる場を作りました。現役日本語教師の方も、養成講座などで勉強中の方も、海外で教えたいという方も、ちょっと興味があるという方も、ぜひお気軽に、何度でもご参加ください。

フリートークではプレゼンターへの質問のほか、参加者同士でお互いの経験や進路のこと、教授法、人間関係、その他話し合いたいことなど気軽に情報交換しましょう。

☆☆☆ 2016 年 11 月～2017 年 1 月期の開催 ☆☆☆

11 月 16 日（水）・12 月 21 日（水）・1 月 18 日（水）いずれも 17～20 時

●場所　**リタイアメント情報センター事務局**
（東京都港区芝大門 1-4-14 芝榮太楼ビル 4F VIP システム内　TEL 03-5733-3531）
＊JR「浜松町」駅（北口）・東京モノレール「浜松町」駅徒歩 7 分
都営浅草線・大江戸線「大門」駅（A4 番口）徒歩 1 分

●参加費　500 円（サロン運営費としてご協力ください）

《りらいぶサロン》とは *******
自分自身の「生きがい」や「やりがい」を考え始めた方々、あるいは退職・離職などで新たな自分の人生の充実を目指す方々が共に集まり、共に考え、共に刺激しあい、それぞれが新たな行動を開始する――。そんなクリエイティブなきっかけづくりの場を提供します。主に退職前後の方を対象に情報提供を行う NPO 法人リタイアメント情報センター（R&I）が運営しています。
****

●お問い合わせ・参加申し込みは…
NPO 法人リタイアメント情報センター（R&I）
TEL 03-5733-2311
E-mail　**appli@retire-info.org**　⇒氏名、年齢、住所、電話番号をお知らせください
ホームページからもお申込みいただけます⇒　**http://retire-info.org**

◎《りらいぶサロン》利用者規約
・ご利用の際はサロン運営費として毎回一人 500 円をご負担ください。
・他の利用者の迷惑にならないよう、マナーを守ってご利用ください。
・サロン利用時間内に限り、酒類を除き、ペットボトル・缶飲料の持ち込みは可能です。ただし、空きボトルなどは各自お持ち帰りください。食事はご遠慮ください。
・許可なくサロン内でのビジネス勧誘、商品販売などの営業活動はご遠慮ください。

---

9. 関西支部行事のお知らせ　（関西支部長　阿賀　敏雄）

関西支部では、10月～来年1月に掛けて、以下の行事を予定しております。
皆様のご参加をお待ち申し上げております。

◆CDの会
日時：10月17日（月）　15:30～17:00　　会場…ベルウッド

◆第15回りらいぶ落語会
日時：10月21日（金）　14:00～16:00　　出演：桂三若さん他　　会場…ホテル・アイボリー

◆りらいぶゴルフ　第1回リタメン会（3組）
日時：10月25日（火）　9：31 スタート　　会場…関西クラシックゴルフ倶楽部

◆笑いヨガ
日時：10月28日（金）　15:30～17:00　　会場…ベルウッド

◆パネルディスカッション　「子供の虐待に向き合って」
日時：10月29日（土）　14:00～16:00　　会場…エトレ豊中5階視聴覚室

◆藤はじめコンサート　（開催チラシは最終頁に添付）
日時：11月11日（金）　15:30～17:00　　会場…ベルウッド

◆「中国人留学生の公演と日中交流の集い」（開催チラシは次頁に添付）
日時：11月17日（木）　14:30～16:30　　会場…エトレ豊中5階すてつぷホール

◆新春特別講演会
日時：1月26日（木）　14:00～15:30　　講演者：森本 敏氏　　会場…ホテル・アイボリー

＜キョウヨウ・キョウイク・エイヨウで人生を楽しく仲良く＞

関西支部長　阿賀　敏雄　090－1896－4575

10. 東京地区から行事のお知らせ　（事務局）

◆カラダりらいぶセミナーⅢ
日時：11月4日（金）　14:00～15:40　　講師：斉藤秀子先生　会場…港区立商工会館 研修室

◆東京地区　第2回りらいぶ落語会
日時：11月30日（水）　13:30～16:00　　会場…お江戸日本橋亭
出演：桂三若、三遊亭兼好、三遊亭じゃんけん

● 「中国人留学生の公演と日中交流の集い」　開催案内チラシ

中国人留学生の公演と日中交流の集い

日時：２０１６年１１月１７日（木）
開場13:00　開演13:30　終演16:30
会場：エトレ豊中5階すてっぷホール
(阪急豊中駅改札口西側隣接)
前売り券：一般　1000円、学生500円

第１部　民族舞踊　&　楽器演奏

1．二胡演奏by 寥天堉（Liao Tian-Yu）
（2015年度、関西大学中国留学生学友会長）
中国琵琶演奏 by 雷依儂（Lei Yi-Nong）（大阪大学経済学部2年生）
i.　いい日旅立ち（二胡独奏）
ii.　世界に一つだけの花（合奏）
iii.　蘭亭序（合奏）
iv.　彝族（イ族）舞曲（琵琶独奏）

2．シルクロードの民族舞踊 by 程方力（大阪大学大学院経済学研究科）
i.　ウイグル族ダンス「豊作の祈り」
ii.　敦煌（とんこう）ダンス「反弾琵琶」

3．ウクレレと歌 by 李志豪（2016年度、大阪大学中国留学生学友会副会長）
i.　我只在乎你（時の流れに身を任せ）

第2部　You are my sunshine.

第3部　異文化交流会

1．中国人留学生のSpeech
i.　日本語、日本文化を学ぼうと思った動機。　日本に留学に来た動機。
ii.　日本の印象。中国との違い。
(日本に来て吃驚したこと。感心したこと。違和感を感じたことなど。)
iii.　今後の進路について。(希望)

2．NPO法人のSpeech by 杉村章二　太陽流通センター(株)会長
(繊維、雑貨検品会社)　「中国人社員の印象（働きぶり)」

寥天堉

雷依儂

程方力

李志豪

主催　NPO法人リタイアメント情報センター
顧問 中野寛成　理事長 竹川忠徳　関西支部長 阿賀敏雄
共催：NPO法人　国際交流の会とよなか（TIFA）
後援：豊中市日中友好協会

● 藤はじめコンサート・開催案内チラシ

秋の歌・心の歌コンサート

2016-11-11(金)15 時～　於 ラウンジ ベル・ウッド（豊中）

この度、ＮＰＯリタイアメント情報センター様のイベントとしてコンサートを開催させていただくことになりました。同情報センター関西支部長の阿賀敏雄様が高校の同期で懇意にしていただいています。

秋たけなわなので、秋の歌などを中心にお送りしたいと思います。藤はじめ一人では心許無いのでシャンソン／クラシックのソプラノ土屋公充子（つちやくみこ）さんをゲストにお迎えしました。

どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

プロフィール

藤はじめ

アトリエ・パリ主催メイト・コパンコピーヌの第 33 期生のオーディションに合格　　2012 年歌手デビュー
1965 年から現在に至るまで合唱団でも歌い続けている
1997 年 55 歳で声楽家に師事（14 年間）
2015 年 73 歳で別の声楽家に師事、現在に至る
2004 年、音楽グループ「夢現」を結成、老健施設等でボランティア活動中
（Sax. Vo. Fl. 各一人、Pf. 二人の五人のグループ）

音楽教室「夢現」主宰

本名：近藤紘一　　1965 年大阪大学卒
東京生まれ大阪育ち　　宝塚在住

土屋公充子

こどもの頃より 東海ラジオ・ＮＨＫの児童合唱団に所属、高校時代の混声合唱を経た後東京在住の頃はコール Meg*に所属　　（*大中 恩が作った自作を主に演奏する合唱団 1957-1987）
2004 年からシャンソンを習い始める
2011 年より、クラシックも学び始め、現在はオリジナルも手掛ける
シャンソン仲間とのコンサート、オリジナル中心のライブ等開催している
2016 年、長年勤めた会社を退職、これを機に更に歌の活動を広げたいと思っている

今回このようなイベントに参加させて頂き、大変嬉しく思います

東京文化服装学院卒　元服飾デザイナー　豊中在住

発行：特定非営利活動法人 リタイアメント情報センター（R&I）
〒105-0012　東京都港区芝大門１－４－１４　芝栄太楼ビル ４Ｆ
ＶＩＰシステム内
●TEL　03-5733-2311　FAX　03-5733-3532
●e-Mail: info@retire.org　ホームページ：　http://retire-info.org/
●リタイアメントジャーナル：　http://retirement.jp/
（発行責任者）　事務局　島村　晴雄